

ヤマトイモの丸種イモ生産技術および センチュウ類対策技術の普及による品質向上

農業技術センター北相地区事務所

実施期間：令和4～6年

課題・目的

- 相模原市のヤマトイモは県内一の生産量を誇り、特産物としてさがみはらブランド推進品目にも選ばれているが、種芋コストが高いことやセンチュウ類の被害により品質が低下していることが問題となっている。
- 種芋コストの低減と品質の向上を図るため丸種イモの生産技術とセンチュウ類の被害を軽減させる技術を普及する必要がある。
そこで、丸種イモを用いた成イモ生産技術と緑肥「ギニアグラス」を用いたセンチュウ被害の軽減技術を講習会や巡回指導により支援した。

活動内容

- JA相模原市が丸種イモを生産し、生産者に配布する生産体系を支援した。
(最適な丸種イモ重量の調査、配布戸数 R4年産11戸、R5年産10戸)
- ギニアグラス「ソイルクリーン」によるセンチュウ密度抑制効果を展示ほにて確認し、(ネコブセンチュウ R4、5年 1192頭→53頭→6頭)
導入を図った。(導入戸数 R4年 1戸、R5年 2戸)
- JA相模原市栽培講習会において、ギニアグラス「ソイルクリーン」の効果を説明した。(R6年1回 26戸参加)
- 導入生産者の増加を図るため、相模原市坪掘共進会において生産者にセンチュウ対策等についてアンケート調査を実施した。(R6年 1回)



丸種イモ養成用の小切片イモ



緑肥(ギニアグラス)

今後の展開

- 緑肥ギニアグラス「ソイルクリーン」の更なる普及
- センチュウ被害が大きいほ場の栽培状況(防除方法、栽培体系等) 土壌(pH、硬度等)を把握し、必要な対策技術を普及する。